

## 相原高校新築工事事業 認証評価書の内容

### 1 環境共生の取組の実施項目

目標	分野	環境共生の取組の実施項目
目標1 自然が有する機能・魅力を生かした都市づくり	土地	1 大幅な土地形状の変更を抑制する
		2 地域の風の流れに配慮した土地利用及び建物配置とする
		○ 3 既存の樹林地、草地、水面、農地等を保全する
		(その他、土地の保全に係る取組を実施する)
	みどり	4 気候緩和のための計画的な緑地を配置する
		○ 5 地域・地区の特性、生態系に配慮した緑地を整備する
		6 貴重動植物種の保全対策をする
		○ 7 道路との敷地境界に生垣や緑地緩衝帯などを整備する
		8 シンボリックな大径木を保全する
		○ 9 緑とふれあえる場を整備する
10 緑化保全に係る協定締結や独自ルールを策定する		
(その他、みどりの保全や緑化推進に係る取組を実施する)		
目標2 環境への負荷を低減する都市づくり	水	○ 11 雨水の地下浸透能力を強化する
		○ 12 上水道の節水設備を導入する
		13 中水道システムを導入する
		14 雨水利用を目的とした、雨水貯留施設を導入する
		(その他、敷地内での水資源の有効対策を講じる)
	エネルギー	○ 15 建物外皮の熱負荷抑制にかかる措置を講じる
		○ 16 通風、熱、昼光などの自然エネルギーをパンプ利用する
		○ 17 省エネ型の照明、空調換気、給湯設備及び動力設備を導入する
		18 太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーを利用する
		19 コージェネレーション設備等による地域冷暖房、地域熱供給システムを導入する
	20 エネルギーの需要と供給をコントロールするマネジメントシステムを導入する	
	(その他、エネルギー利用の効率化・合理化に係る取組を実施する)	
	資源循環	○ 21 耐久性や更新性の向上など、建築物の長寿命化にかかる措置を講じる
		○ 22 設備の維持管理対策・更新性等の措置を講じる
		23 建築物、外構等によりサイクル材を使用する
		24 ごみ分別収集システムを導入する
		○ 25 建築物を木造化・木質化する
		26 既存構造物を利活用する
		27 生ごみや剪定枝などの排出抑制に取り組む
	(その他、資源の循環利用に係る取組を実施する)	
目標3 環境とのバランスのとれた交通計画による都市づくり	交通	○ 28 施設の整備規模に応じた駐・停車、駐輪スペースを確保する
		29 公共交通機関への乗り継ぎ・乗り換え環境を整備する
		30 公共交通の導入を前提とした道路を整備する
		○ 31 自転車・歩行者空間を整備する
		32 低公害車のサービス拠点を整備する
		33 車・自転車のシェアシステムや、低公害車を導入する
		34 公共交通への近接性を確保する
		(その他、環境と共生する交通システムの推進に係る取組を実施する)
目標4 地域アミニティを創出する都市づくり	地域アミニティ	○ 35 地域景観に配慮し、電線の地中化や建築物等の高さ、形状、色等の工夫をする
		36 街並みなどの維持のためのルールを策定する
		○ 37 地域に開かれたコミュニティスペースやサービス拠点などを整備する
		38 災害時に利用出来るような施設を適切に配置する
		39 利用者が安心して過ごせるよう、地域の防災・防犯対策に係る取組を実施する
		○ 40 高齢者、障害者等に配慮した建築物、歩行空間等を整備する
		41 利用者が健康・快適に過ごせる環境づくりに係る取組を実施する
(その他、コミュニティ形成の支援など、地域アミニティの創出に係る取組を実施する)		

## 2 環境共生の取組の実施内容

目標	項番	環境共生の取組の実施内容
目標 1	3	既存林は教育活動及び安全上の観点から一部伐採するが、可能な限り保全活用する。
	5	神奈川県土に適した樹木であるアラカン、クスノキ、エノキ等を保存する。
	7	敷地境界に、緑地緩衝帯となる高木・中木・低木を組み合わせた立体的な緑地を整備する。
	9	緑とふれあえる場として、環境実習地を整備する。
目標 2	11	雨水は浸透トレンチの構内処理設備や既設舗装の撤去、畑地化を採用することで水循環に配慮する。
	12	節水コマ、自動水栓、節水型便器の導入により、水の省資源化を図る。
	15	吹抜部分の外皮を緑化するなど、熱負荷の抑制を図る。
	16	各校舎は4階建の本館からプロムナードに沿って3階、2階と低層化し、各教室への採光・通風に配慮する。
	17	LED照明を採用するとともに、人感センサーにより照明制御を行うことで、エネルギー使用量の抑制を図る。
	21	分別が容易なGL工法、LGS壁工法を採用し、更新性を確保する。
	22	再利用可能なOAフロアを採用し、将来の変容性に配慮する。
目標 3	25	畜舎棟は大架構の木造建築を採用する。
	28	利用者のための適切な量の駐車、駐輪スペースを確保する。
	31	自動車と自転車・歩行者の動線を分離し、安全な自転車・歩行者空間を確保する。
目標 4	35	畜舎棟を敷地の中央に配置することで、隣接する林場・圃場を近接する住宅地との効果的な緩衝地として生かし、臭気や騒音の影響を軽減する。
	37	直売所は、地域の人達が利用できるよう計画している。
	40	廊下、階段に手すりを設け、床を滑りづらい仕上げとするとともに、車いす使用者が円滑に利用できる共用便所や駐車区画を設けるなど、バリアフリーに配慮する。

## 3 環境共生の取組の評価結果

代表指標	取組の評価結果
緑化率	21.0%
エネルギー削減率	0.84
CO <sub>2</sub> 削減率	5%

個別指標	取組項目数	目標項目数
目標 1	4	4
目標 2	8	8
目標 3	2	2
目標 4	3	3

## 4 環境共生の取組の継続・維持管理方針

本認証評価書に掲げる環境共生の取組については、「県央・湘南都市圏環境共生モデル都市づくり推進要綱」の趣旨を踏まえ、適正に継続・維持管理が図られるよう努めるものとする。

また、本事業により整備する施設等を譲渡などにより第三者へ承継する場合、承継する者に対し、本認証評価書に基づく環境共生の取組を可能な限り継続していくよう通知するとともに、速やかに県に対して申し出るものとする。